

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果報告【概要版】

印西市 小学校・中学校



いんザイ君©2011 Inzai City

印西市教育委員会

印西市教育センター

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査を実施した児童生徒数（印西市）

- 小学校第6学年・・・1,069名
- 中学校第3学年・・・845名

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

国語、算数・数学はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問を追加して実施。

(4) 調査実施日

令和3年5月27日（木）

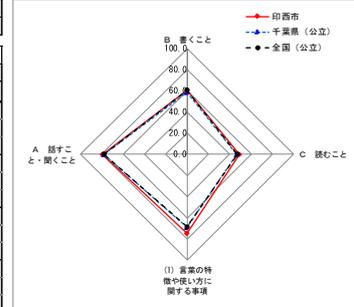
2 小学校調査

(1) 教科に関する調査 【全国・千葉県との比較】 【国語科】

集計結果

対象児童数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)		
		1,069	49,600	993,975		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	68	65	64.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	6	74.7	68.9	68.3
		(2) 情報の扱い方に關する事項	0			
		(3) 我が國の言語文化に關する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 書くこと・聞くこと	3	79.0	77.6	77.8
		B 書くこと	2	60.5	58.4	60.7
	C 読むこと	3	48.9	46.8	47.2	
評価の観点	知識・技能	6	74.7	68.9	68.3	
	思考・判断・表現	8	63.1	61.3	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	73.6	71.2	71.7	
	短答式	3	81.2	73.4	70.6	
	記述式	3	40.3	37.9	40.2	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>

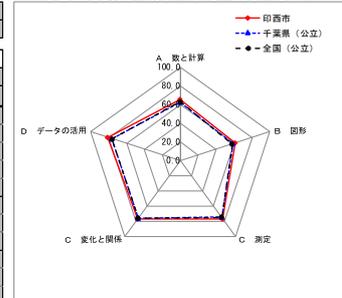


【算数科】

集計結果

対象児童数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		1,068	49,592	994,101	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	73	70	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	65.7	62.9	63.1
	B 図形	3	61.2	59.0	57.9
	C 測定	3	76.6	74.6	74.8
	C 変化と関係	3	77.0	76.3	75.9
	D データの活用	5	80.6	76.0	76.0
評価の観点	知識・技能	9	77.2	74.8	74.1
	思考・判断・表現	7	68.2	64.8	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	79.8	76.4	76.0
	短答式	6	78.7	76.5	75.8
	記述式	4	55.2	52.3	53.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



【結果と分析】

<国語科>

問題の正答率は、全国平均・県平均を上回っている。

領域等別でも、全ての領域において全国平均・県平均を上回っている。

設問別でみると、目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることや、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られる。

どのように書くと相手に伝わりやすいか、目的や意図、条件に応じて書く学習のさらなる改善が求められる。

文中の修飾、被修飾の関係については日常から意識させていくことが求められる。

<算数科>

全体の正答率は、全国平均・県平均のどちらも上回っている。

領域等別でも、すべての領域で全国平均・県平均のどちらも上回っている。

問題形式別では、全国平均と県平均のどちらも上回っている。しかし、記述式においては50%程度であるため今後の課題といえる。

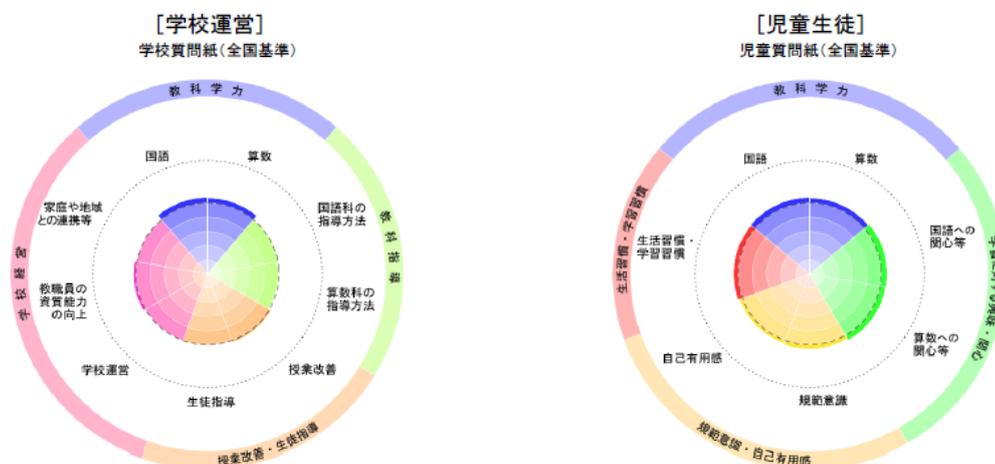
観点別においても、全国平均と県平均のどちらも上回っている。

設問別では、概ね良好な結果である中で、1(3)「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」においては、全国平均及び県平均を下回っている。式から導き出された数の意味について、説明したり表現したりする力の育成が望まれる。

(2) 学校質問紙調査・児童質問紙調査

【全国との比較】 ※左：学校質問紙 右：児童質問紙

学校数	児童数
18	1,068



【傾向と分析】

<学校質問紙>

- ・算数科の授業において補充的な学習は十分に取り入れられているが、実生活との関連をもたせる授業や学習については更なる充実が必要である。その際、学校や地域の実態にも合わせた授業構成や教材等を工夫したい。
- ・学習規律面の項目において、低い傾向が見られるものがある。生徒指導の機能を活かした学習指導の充実を図るとともに、児童一人一人が主体的に課題解決していく授業を展開し、児童のよさや可能性を見いだす取組を続けていく。
- ・家庭学習の与え方や学習内容・方法について、校内での共通理解が図られており、児童への指導や家庭への働きかけも積極的に行われている。児童や家庭に対して、「家庭学習のてびき」等を活用して、具体的な内容や目安となる時間を示すことが必要である。新型コロナウイルス感染症予防のため、学校が休業期間中も家庭学習を全ての学校において実施して学びを続けてきた。
- ・指導法の改善や指導力の向上のための校内研修が積極的に行われている。授業研究の成果や課題を日常的な指導や組織的な取組として生かし、「主体的・対話的で深い学び」となる授業の改善を行っていく。
- ・感染予防のため、小中の情報交換が中止となることがあったが、今後はICT機器も活用しながら小中の連携を図り教育課程を見直していく。

<児童質問紙>

- ・学習(国語・算数・英語)に対する関心や意欲については、国や千葉県と比較するとやや高い傾向にある。これが反映して、教科に関する調査においても全国より正答率は高くなっている。
- ・「規範意識」や「自己有用感」は、教員が児童のよいところを評価していることで、自己有

用感・自己肯定感が高まってきている。ただし自己有用感が高まっていない児童が2割いる。他学年・他学級の身近な教員や児童同士の認め合いを図り、学校全体で児童の自己有用感・自己肯定感を高めたい。

- ・保護者向けリーフレット『印西の子供たちに確かな学力を』の配付や「生活習慣・家庭学習チェック週間カード」の提案を通じて、朝食の摂取、家庭学習の習慣や自分で計画を立てて学習を進めている児童の割合が増加している。睡眠に対しては意識が低いため、保健の学習の中で健康教育に力を入れ家庭にも協力を得られるようにしていく。
- ・ICT機器を活用した学習を望んでいる。1時間の学習の中で、ICT機器を効果的に取り入れた学びが展開できるように研修を進めていく。
- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、他者との協働や対話の中で、自分の考えを深めたり、広げたりする学習を今後さらに増やしていく。ただし、全ての学習において基礎・基本は大切であるため、教員は教えるべきことはしっかりと教えるように心掛けていく。

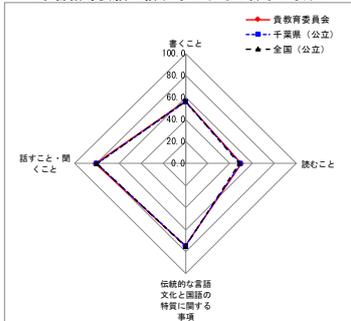
3 中学校調査

(1) 教科に関する調査 【全国・千葉県との比較】 【国語科】

集計結果

対象生徒数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		845	44,577	903,157	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		14	65	65	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.3	79.9	79.8
	書くこと	3	56.6	56.2	57.1
	読むこと	4	50.2	49.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項	4	74.7	74.7	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.6	56.0	56.0
	話す・聞く能力	3	81.3	79.9	79.8
	書く能力	3	56.6	56.2	57.1
	読む能力	4	50.2	49.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	74.7	74.7	75.1
問題形式	選択式	6	64.9	64.5	63.9
	短答式	4	74.5	73.7	74.4
	記述式	4	56.6	56.0	56.0

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

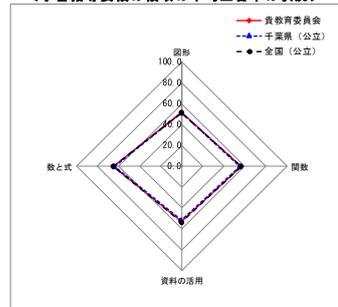


【数学科】

集計結果

対象生徒数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		846	44,574	903,253	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	57	56	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	64.7	64.0	64.9
	図形	4	52.1	51.1	51.4
	関数	3	56.5	55.0	56.4
	資料の活用	4	53.2	51.8	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	41.5	40.4	41.1
	数学的な技能	3	77.2	76.2	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	65.4	64.2	65.6
問題形式	選択式	2	52.8	51.3	52.4
	短答式	9	70.6	69.4	70.5
	記述式	5	34.7	33.8	35.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



【結果と分析】

<国語科>

全体の正答率は、全国平均・県平均とほぼ同等である。

領域等別においては、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」において、全国平均を下回っている。

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもち表現する学習をさらに取り入れていく必要がある。

自分の考えを支える根拠となる段落や部分、文章を挙げるように授業の中で取り入れていく。

文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて情報を選択し、整理することが大切である。

相手や場に応じて敬語を適切に使用することを、学校生活の中で常に取り入れていく必要がある。

<数学科>

全体の正答率は、全国平均を下回っており、県平均と同程度である。

領域等別の「図形」「関数」では全国平均・県平均のどちらも上回っている。「数と式」「資料の活用」では、県平均を上回っているが、全国平均を下回っている。

問題形式別の「選択式」「短答式」では全国平均・県平均を上回っている。「記述式」では、県平均を上回っているが、全国平均を下回っている。

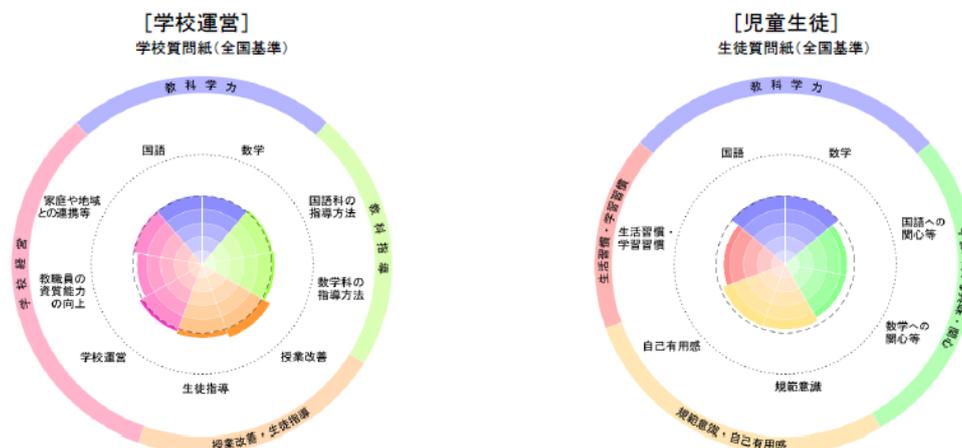
観点別では「数学的な見方や考え方」は全国平均・県平均を上回っている。「数量や図形などについての知識・理解」は県平均を上回っているが、全国平均を下回っている。

設問別では、全国平均と県平均と同等以上の設問があるが、半数の設問では下回っている。

(2) 学校質問紙調査・生徒質問紙調査

【全国との比較】※左：学校質問紙 右：生徒質問紙

学校数	生徒数
9	845



【傾向と分析】

<学校質問紙>

- ・国語科の指導において、授業中に話したり聞いたり、読んだり、書いたりする割合は全国や千葉県よりも高い。しかし、自分の考えを広げたり深めたりする授業の割合は全国や千葉県よりも低い。
- ・数学科の指導において、全国や千葉県と比べて発展的な学習の指導の割合が高い。また、実生活における事象を扱った授業も積極的に展開している。
- ・学校組織で教育活動の改善に向けて全国学力・学習状況調査結果を活用している。
- ・全国や県の結果と比較して、市内中学校職員の研修に対する意識をいっそう高める必要がある。
- ・身に付けた力を課題解決に活かす機会を意図的に設けていることで、自分から課題解決に向かう生徒の割合が全国や千葉県よりも高い。主体的に課題に取り組む生徒を育成できる。
- ・全国や県の結果と比較して、市内中学校職員の家庭学習に対する意識を高める必要がある。生徒や家庭への統一した働きかけをすることによって、家庭学習と授業との接続がよくなり、さらなる学力向上を目指すことができる。

<生徒質問紙>

- ・国語・数学それぞれの「好き」の割合は50～60%程度であり国や千葉県よりも低い。特に国語は、国よりも10%も低いことから、生徒が興味・関心をもてるような国語の学習が望まれる。
- ・国語の理解度を表す「授業の内容がよく分かる」は、国や千葉県よりも低い。生徒が国語に対して、主体的に学習に取り組んでいくことができるように授業の改善を

図っていく。

- ・数学の理解度を表す「授業の内容がよく分かる」は、国や千葉県よりも高い。また、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えます」の割合は、国や千葉県よりも高い。教員が積極的に数学を日常の事象と合わせて学習を展開してきている成果だと考える。さらに、関心・意欲が向上する手立てをとっていきたい。
- ・自己有用感は、経年変化で見ると増加してきている。教員が生徒のよさを評価すること（認めること）で生徒の自己有用感や自尊感情は高まっていくことが分かる。人との関わりや集団で物事を成し遂げる中で、自分のよさを感じられる体験を多くもてるようにしたい。
- ・調査対象年の生徒によって異なるが、基本的な生活習慣の項目において国や千葉県の割合を下回っている。生活の安定が学習の成果に関連していることは周知の件であるため、引き続き規則正しい生活の声掛けを行っていく。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている割合は全国や千葉県よりも低い。教員や地域の大人が社会的に自立しようとしている生徒を支援していくことを一緒に考えていくことが大切である。